

かつた髪かみで、なんとかマゲを結つたが、短いのですぐにばらばらになつてしまふ。呼びとめられるたびに、

「もうこれで終わりか。」

と死ぬ覚悟かくごをきめた。しかし、そのたびにお坊さんがうまく言いわけをしてくれて、無事に新潟へたどりつくことができた。十一月二十二日のことである。

もう新潟まで来ると、会津藩への取り調べはきびしくなかつた。このとき、奥平おくだいらは佐渡さどに行つていたので、二人もそのあとを追つた。新潟からの船の中、これから、この海のむこうにどんなことが待ちうけているのかと、不安を感じながらも、自分にあたえられた大切な務めを考えると、身のひきしまる思いであつた。奥平は、二人が無事むじに到着とうちやくしたのを喜び、しつかり勉強するようにはげました。

佐渡についた二人の少年は、ようやく安心して勉強することができるよう